

韓国清溪川復元事業調査

研究第一部 主任研究員 齊籐 重人



1. はじめに

本年、2月に国土交通省河川局の調査団に同行して、韓国清溪川の復元事業の調査を行う機会を得ました。この事業は、ソウル中心部の幹線道路である清溪路においてその高架道路を撤去すると同時に元あった清溪川を復元するものです。今回、現在までの経過やその目指すべき方向性および事業の実施状況について報告します。

2. 事業実施に至る経緯

清溪川は韓国の首都ソウルの中心部を西から東に流れる、流域面積約50km²、延長約11kmの都市河川である。下水道的な機能をはじめ洗濯場、遊び場そして数々のイベントの場として古くからソウル市民と密接な関係を有する河川であった。

しかしながら都市化の進展により河川の汚染も深刻な状況になり、伝染病や犯罪の温床とまで言われるようになり、1950年代後半から覆蓋工事を行い、上下各4車線の一般道路とその真ん中に上下各2車線の自動車専用道路として清溪高架道路が築造された。

1992年清溪高架道路の安全診断を実施したところ、鋼材の腐食や床版の損傷が著しく、その安全性に問題があることが判明した。一方で市民団体や専門家の間では清溪川の復元に関する構想が独自に研究されていた。そのような状況の中、清溪川復元を選挙公約とした現市長が2002年7月に就任した。



写真-1 事業着手前の状況

3. 事業目的

今回の事業は都市内交通の再編を行うと同時に周辺の環境向上を目指して清溪川を復元するものであ

り、その基本的な意義としては、

- ① 600年古都ソウルにおける歴史と文化回復
- ② 人と自然が中心となる環境にやさしい街づくり
- ③ 高架道路等の安全問題の根本的解消
- ④ 都心の活性化と国際的な競争力の強化

であり、その結果としてソウルを蘇らせ「21世紀文化環境都市ソウル」の実現を図ろうとするもので、過去の歴史・文化を再発見しソウル本来の姿を取り戻すとともに自然と共生する都市として再生しそのブランド力を高めようとするものである。



図-1 完成予想図

4. 事業の概要

工事期間：2003年7月～2005年9月

総事業費：3,577億ウォン（約360億円）

工事延長：L=約5.8km

総幅：B=50～80m

工事内容：高架道路の撤去

清溪川復元

周辺地域の再開発

橋梁など文化遺産の復活

清溪川を復元するにあたっては「自然がある都市河川」にすることを基本に、上流から下流へ、歴史→文化→自然という概念で復元することとしており、その具体的目標としてはきれいな水が常時流れ、ネコヤナギ、オギ等が生育しフナやオイカワやカモ等の野鳥がいるような生物生息空間を目指している。河川の確率規模としては1/200であり、河床を現在より平均1.5m程度掘削することになる。また、平常時に必要とされる約12万t/日の水は地下鉄駅への浸出水、下水処理水の再利用および漢江から注水する予定となっている。

5. 事業経過と推進方法

事業着手までの経過を簡単に示すと以下のとおりである。

2002. 7：現市長が就任

2002. 12：基本計画（案）の提出

2003. 1：市民委員会の審議

2003. 2：市議会報告・マスコミ発表
：市民公聴会

2003. 7：着工

現在、高架道路の撤去を終え、河川下の両サイドに上水道等のボックスカルバートを敷設する工事が進められている。



写真-2 現在の工事実施状況

今回の事業については、以前より清溪川復元の構想はあったとはいえ、現市長が清溪川復元を公約に当選したことで、事業推進に対する基本姿勢が明確となり、強いリーダーシップのもと、問題解決に取り組んでいることが、短期間に事業実施に至った大きな要因と考えられる。

事業推進の体制としては、

- ①ソウル市に設置した推進本部が交通、河川などの各部門の事業を一元的に執行
- ②市民委員会が中心になって、一般市民、専門家、利害関係者などの意見を集約
- ③支援研究団が計画の妥当性の確認や基本計画の策定等の業務を実施

という役割分担になっている。

事業実施における交通問題への対応として、

- ①バス路線・運営体系の全面的改変による乗用車交通量の吸収
- ②地下鉄運営の改善（深夜延長運行、急行電車運行、運行時間間隔の短縮、乗換施設の増設）
- ③都心交通システムの改編
- ④都市内への車両の集中を抑えるための駐車管理地元商店街への対応として、

- ①営業に支障が無いように、清溪川両岸に2車線道路を確保
- ②業種変更等を希望する場合には行政支援を実施等がある。

また、事業実施にあたり非常に重要となる市民合意については

- ①市民団体や専門家の間では1990年頃から清溪川復活の構想があり、独自に研究を実施。それらの人達が市民委員会の中心メンバーを構成
- ②事業開始前に、ソウル市全体の約70%の市民が賛成
- ③毎週土曜日に市民の意見を聞くための場を設定
- ④清溪川周辺の露天商や住民など、復元に反対する一部の市民については、上下各2車線の道路を残すこと、他地域への移転先を確保すること、再開発についてソウル市が行うことで同意を取り付けた

という状況である。

6. おわりに

清溪川は市民生活の変化にともなう歴史的な経緯があり覆盖されました。「川を復元する」ことはソウル市が環境にやさしい都市空間として生まれ変わり、ソウルのイメージを改善するためのシンボルとして考えられているようです。その復元にあたっては、全ての事業がソウル特別市の主体で行われており、意思決定から事業着手までのスピードの早さには驚きました。日本と比べると国民性の違い等があり、そのやり方がそのまま使えるとは思えませんが、組織作りや市民のコンセンサスの取り方等は参考になるように思われます。今後ともこの事業の実現に注目していきたいと考えています。